



Unite and Grow
ユナイトアンドグロウ株式会社
東証マザーズ (証券コード: 4486)

上場時の会社予想を上回り、

前年比で売上高17%増、営業利益20%増の大幅増収増益を達成

売上高

1,624百万円

前年比

+17.0%

営業利益

205百万円

前年比

+20.1%

親会社株主に帰属する当期純利益

133百万円

前年比

+8.6%

事業トピックス

インソーシング事業

- シェアード社員の純増は限定的だったものの、高い稼働率の維持と単価上昇で大幅増収増益を達成
- IT人材不足を背景に、成長企業からの引き合いが増加し、会員企業数が着実に増加

セキュリティ事業

- クレジットカード業界の情報セキュリティ基準PCI DSS (*1) のコンサルティング需要の継続及び教育研修サービスの開始で増収を確保するも、教育研修サービスの開発投資等により減益

(*1) Payment Card Industry Data Security Standard

- 上場時に公表した会社予想をいずれも超過達成。特にシェアリング密度の向上により、原価率の改善が想定を上回る
- 対前年では、インソーシング事業がけん引し、売上高17.0%増、営業利益20.1%増を達成。上場関連費用も吸収し、経常利益8.5%増、当期純利益8.6%増を達成

| | 2018/12期 | | 2019/12期 | | | | | |
|-------------------------|-------------|-------------|-------------------|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| | 実績 (百万円) | 売上高比 (%) | 会社予想(*1) (百万円) | 売上高比 (%) | 実績 (百万円) | 売上高比 (%) | 前期比 (%) | 会社予想比 (%) |
| 売上高 | 1,388 | 100.0 | 1,606 | 100.0 | 1,624 | 100.0 | +17.0 | +1.1 |
| 売上原価 | 777 | 56.0 | 867 | 53.9 | 862 | 53.1 | +10.8 | ▲0.6 |
| 売上総利益 | 610 | 43.9 | 738 | 45.9 | 762 | 46.9 | +24.9 | +3.3 |
| 販売管理費 | 439 | 31.6 | 539 | 33.5 | 556 | 34.3 | +26.7 | +3.3 |
| 営業利益 | 171 | 12.3 | 198 | 12.4 | 205 | 12.7 | +20.1 | +3.9 |
| 経常利益 | 176 | 12.6 | 184 | 11.5 | 191 | 11.8 | +8.5 | +4.0 |
| 親会社株主に 帰属する 当期純利益 | 123 | 8.8 | 124 | 7.7 | 133 | 8.2 | +8.6 | +8.0 |

*1 上場日（2019年12月18日）公表

© Unite and Grow Inc.

営業利益の増減要因

- インソーシング事業の增收効果および粗利益率の改善が売上総利益の増加に大きく寄与
- 上場関連費用や管理部門の充実、処遇の改善等による販管費の増加を吸収し、営業利益での2割増益を達成

增收効果要因

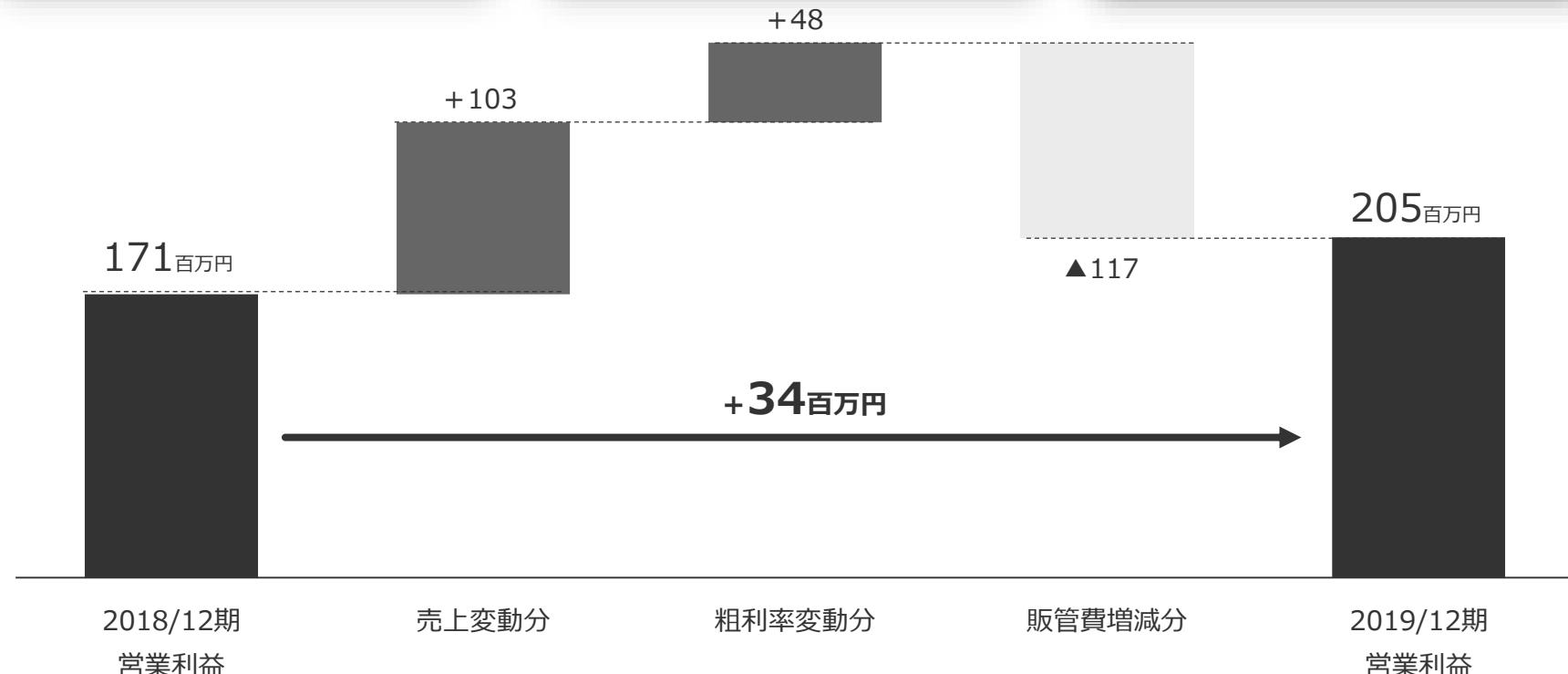
- ・ インソーシング事業での会員企業数の増加と高稼働率の維持
- ・ シェアード社員数の増加、およびスキルレベルの上昇による平均単価の上昇

粗利率改善要因

- ・ シェアード社員1人あたり顧客数の増加
- ・ シェアード社員のスキルレベルの上昇による平均単価の上昇

販管費増加

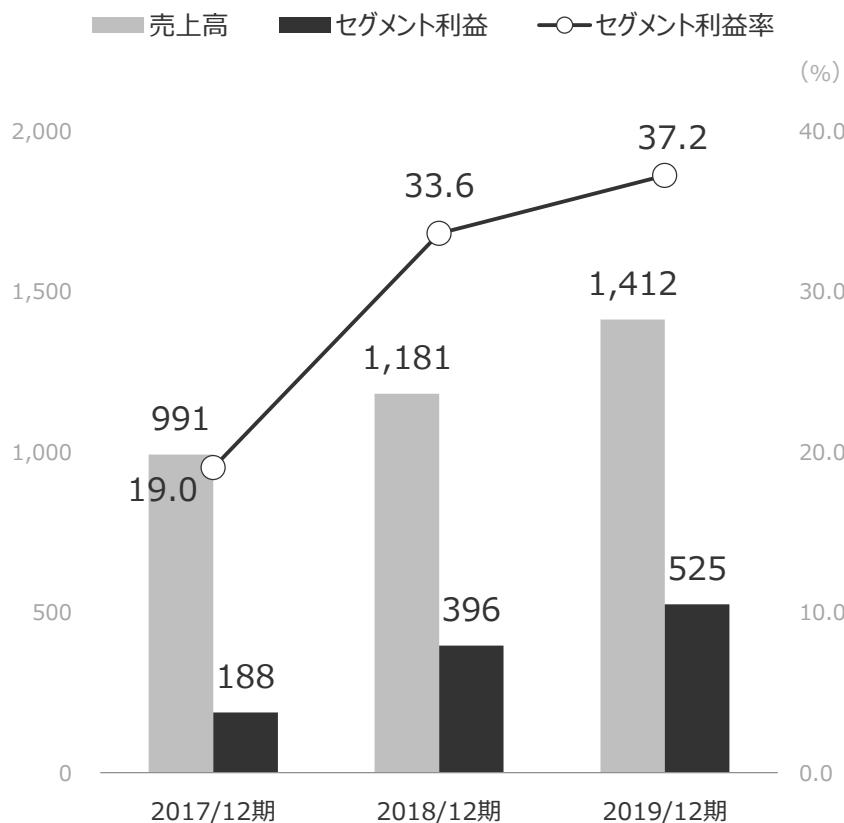
- ・ 上場関連業務にかかる支払手数料の増加
- ・ 管理部門強化、シェアード社員の処遇改善による人件費の増加



セグメント別実績

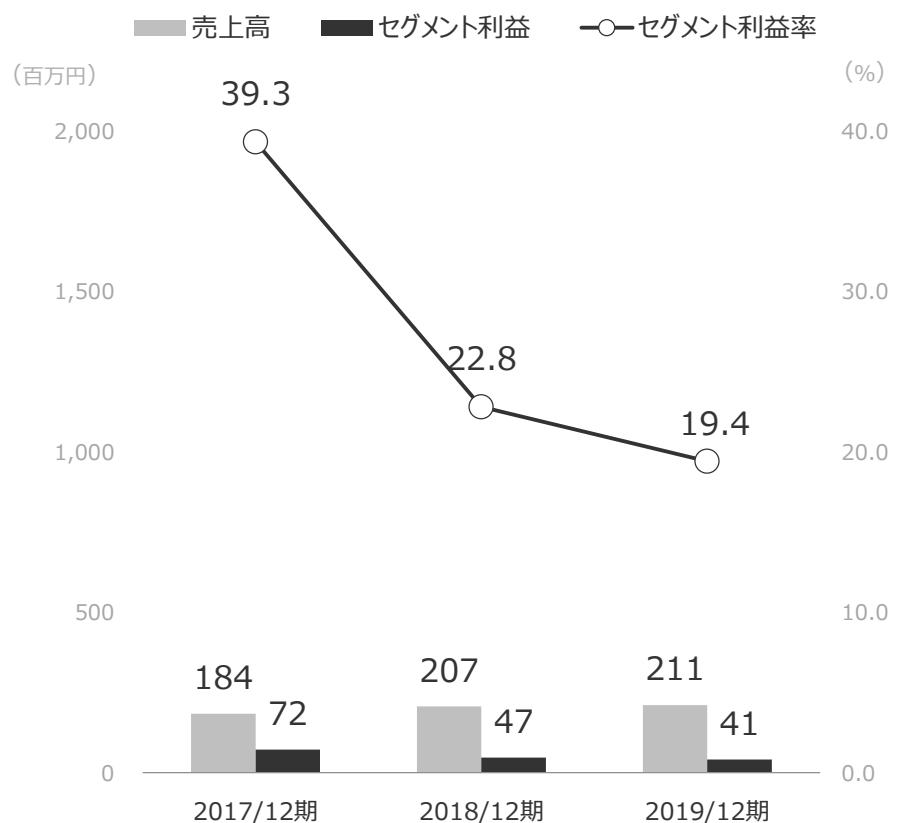
インソーシング事業

- ・ 売上高19.6%増、セグメント利益32.7%増の大幅な増収増益
- ・ シェアード社員の稼働人員が3名増加に留まるものの、高い稼働率の維持と単価上昇により大幅な増収
- ・ 社員のスキル向上による単価上昇等で利益率改善、大幅増益達成



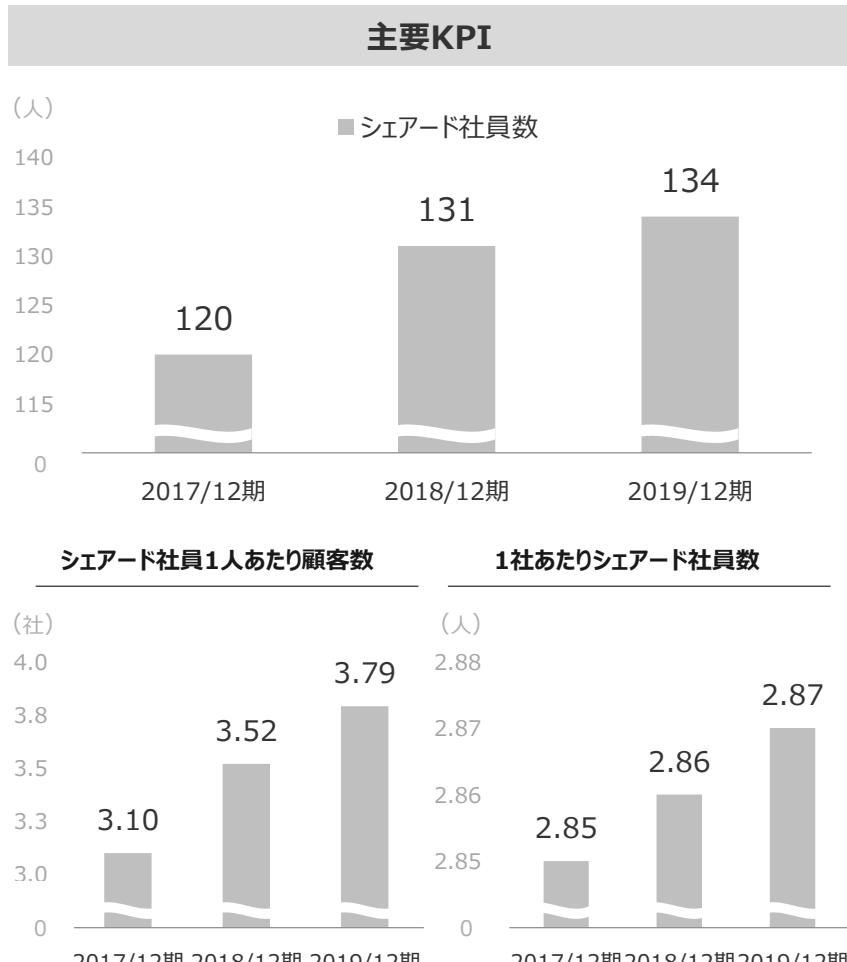
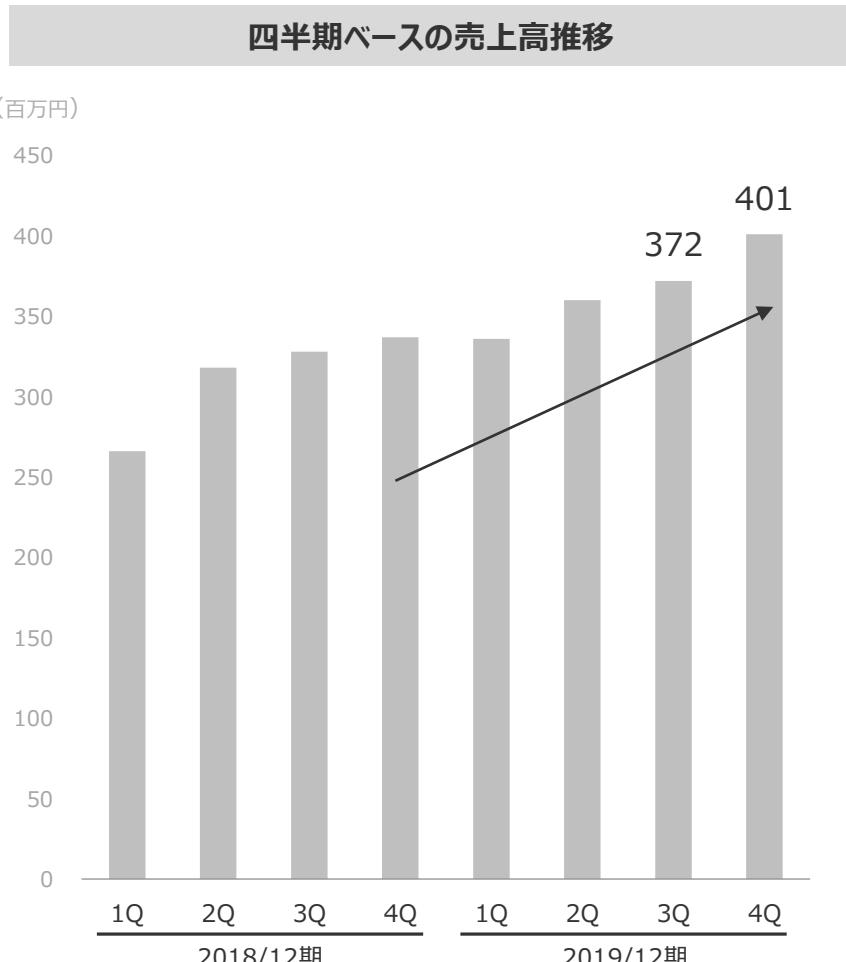
セキュリティ事業

- ・ 売上高2.0%増、セグメント利益12.9%減の微増収減益
- ・ 割賦販売法改正に伴う特需減少を教育研修サービスの伸長で僅かにカバーし、増収を確保
- ・ セグメント利益は、教育研修サービスの開始等により二桁減益



インソーシング事業の動向

- 2019年12月期は第1四半期から四半期ごとに売上を拡大
- シェアード社員数は上場関連対応や管理部門充実のため、実質増員は3名に留まる
- 1社あたりのシェアード社員数は減少するも、シェアード社員1人あたりの顧客数の増加、スキルアップによる時間当たり単価上昇が寄与





- 公募増資及び利益剰余金の増加により、純資産が倍増
- 自己資本比率は前期末53%から68%まで上昇

| 科目 | 2018/12期4Q末 | 2019/12期4Q末 | 前年未差 |
|-------------|-------------|--------------|-------------|
| 資産の部 | | | |
| 流動資産 | | | |
| 現金及び預金 | 654 | 1,394 | +739 |
| 売掛金 | 11 | 14 | +3 |
| 流動資産合計 | 824 | 1,433 | +609 |
| 固定資産 | | | |
| 有形固定資産 | 34 | 36 | +1 |
| 無形固定資産 | 33 | 30 | ▲3 |
| 投資その他の資産 | 25 | 31 | +6 |
| 固定資産合計 | 93 | 98 | +5 |
| 資産合計 | 918 | 1,532 | +614 |

| 科目 | 2018/12期4Q末 | 2019/12期4Q末 | 前年未差 |
|----------------|-------------|--------------|-------------|
| 負債の部 | | | |
| 流動負債 | | | |
| 有利子負債 | 11 | 11 | 0 |
| 流動負債合計 | 400 | 470 | +70 |
| 固定負債 | | | |
| 有利子負債 | 18 | 7 | ▲11 |
| 固定負債合計 | 26 | 18 | ▲8 |
| 負債合計 | 426 | 489 | +62 |
| 純資産の部 | | | |
| 株主資本合計 | 491 | 1,043 | +551 |
| 純資産合計 | 491 | 1,043 | +551 |
| 負債純資産合計 | 918 | 1,532 | +614 |

キャッシュフローの動向

- 現金及び現金同等物の期末残高は着実に積み上がってきている
- 供託金の預け入れにより、投資キャッシュ・フローのマイナスが一時的に大きくなつたが、利益の拡大による営業キャッシュ・フロー、公募増資による財務キャッシュ・フローの大幅黒字でカバーした

| (百万円) | 2018/12期 | 2019/12期 | 前期比較 |
|---------------|----------|----------|------|
| 営業キャッシュ・フロー | 148 | 261 | +112 |
| 投資キャッシュ・フロー | ▲13 | ▲164 | ▲151 |
| 財務キャッシュ・フロー | 19 | 392 | +372 |
| 現金及び現金同等物の期末残 | 724 | 1,214 | +489 |

今期見通し

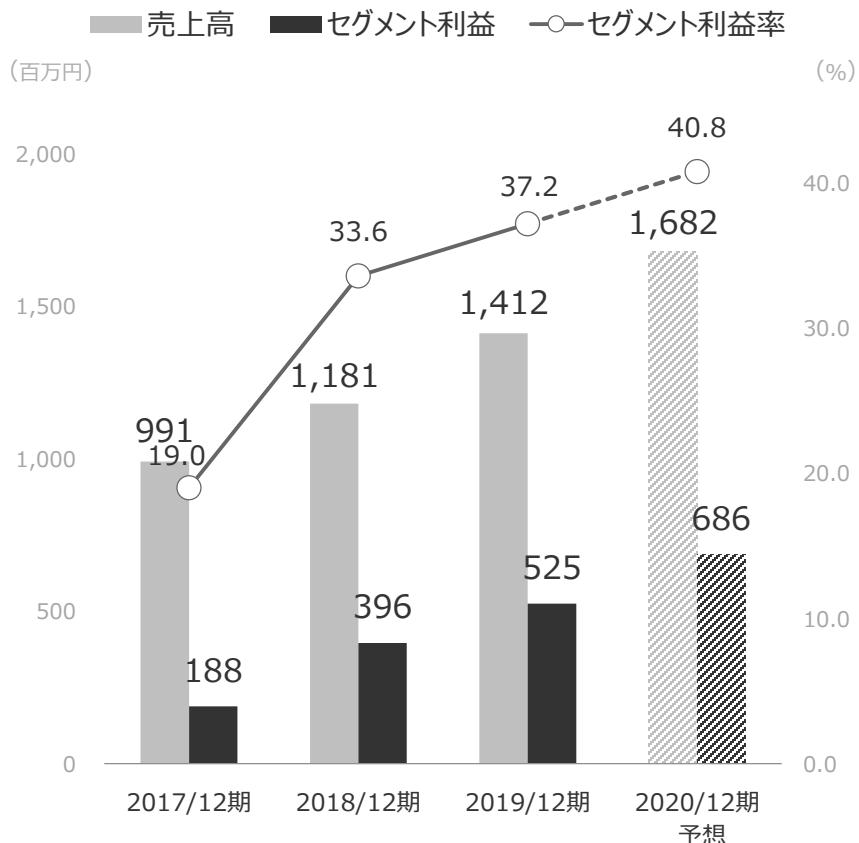
- セキュリティ事業の特需一服を好調なインソーシング事業でカバーし、二桁増益を見込む
- システム強化や人材投資、シェアリング密度維持を目的とした組織細分化関連費用を吸収し、増益を確保
- 当社の強みであるIT人材のシェアリング高度化により、2021年度以降の成長拡大を目指す

| | 2019/12期 | | 2020/12期（予想） | | 前期比較 | |
|---------------------|-------------|------------|--------------|------------|------------|---------------|
| | 実績 (百万円) | 売上比 (%) | 実績 (百万円) | 売上比 (%) | 前期比 (%) | 売上比増減 (pt) |
| 売上高 | 1,624 | 100.0 | 1,826 | 100.0 | +12.4 | - |
| 売上原価 | 862 | 53.1 | 932 | 51.1 | +8.2 | ▲2.0 |
| 売上総利益 | 762 | 46.9 | 893 | 48.9 | +17.2 | +2.0 |
| 販売管理費 | 556 | 34.3 | 674 | 37.0 | +21.2 | +2.7 |
| 営業利益 | 205 | 12.7 | 218 | 12.0 | +6.6 | ▲0.7 |
| 経常利益 | 191 | 11.8 | 218 | 12.0 | +14.4 | ▲0.2 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 133 | 8.2 | 147 | 8.1 | +10.0 | ▲0.1 |

セグメント別見通し

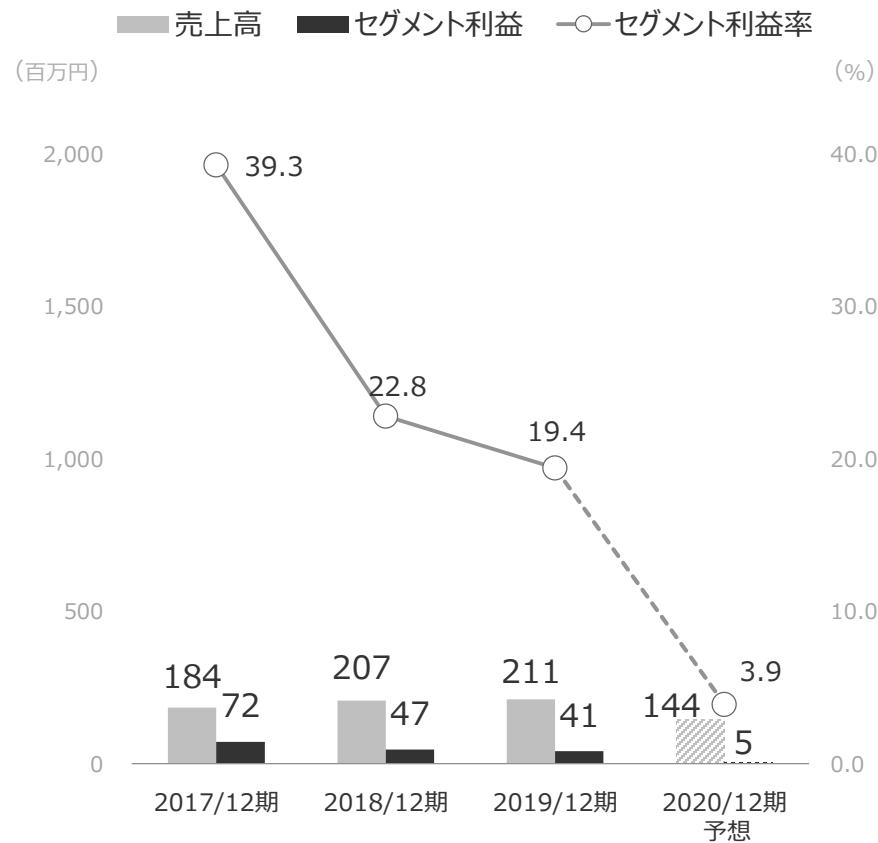
インソーシング事業

- 引き続き会員企業数増加とシェアード社員数の増加を見込み、2割增收、3割増益を計画
- 稼働率維持と社内研修強化によるシェアード社員の単価上昇で利益率改善を図っていく



セキュリティ事業

- 割賦販売法改正およびPCI DSS関連の特需の終了を見込み3割減収・9割減益を計画
- 今期は、PCI DSSの認証取得関連業務を中心とし、来期以降に向けた新サービス開発を進めていく



営業利益の増減要因見通し

- セキュリティ事業が一服する中、インソーシング事業の增收効果および利益率改善効果が営業利益を牽引
- 経営基盤強化のため、社員の待遇改善や採用強化、システム等のインフラ整備関連を積極的に実施予定

增收効果要因

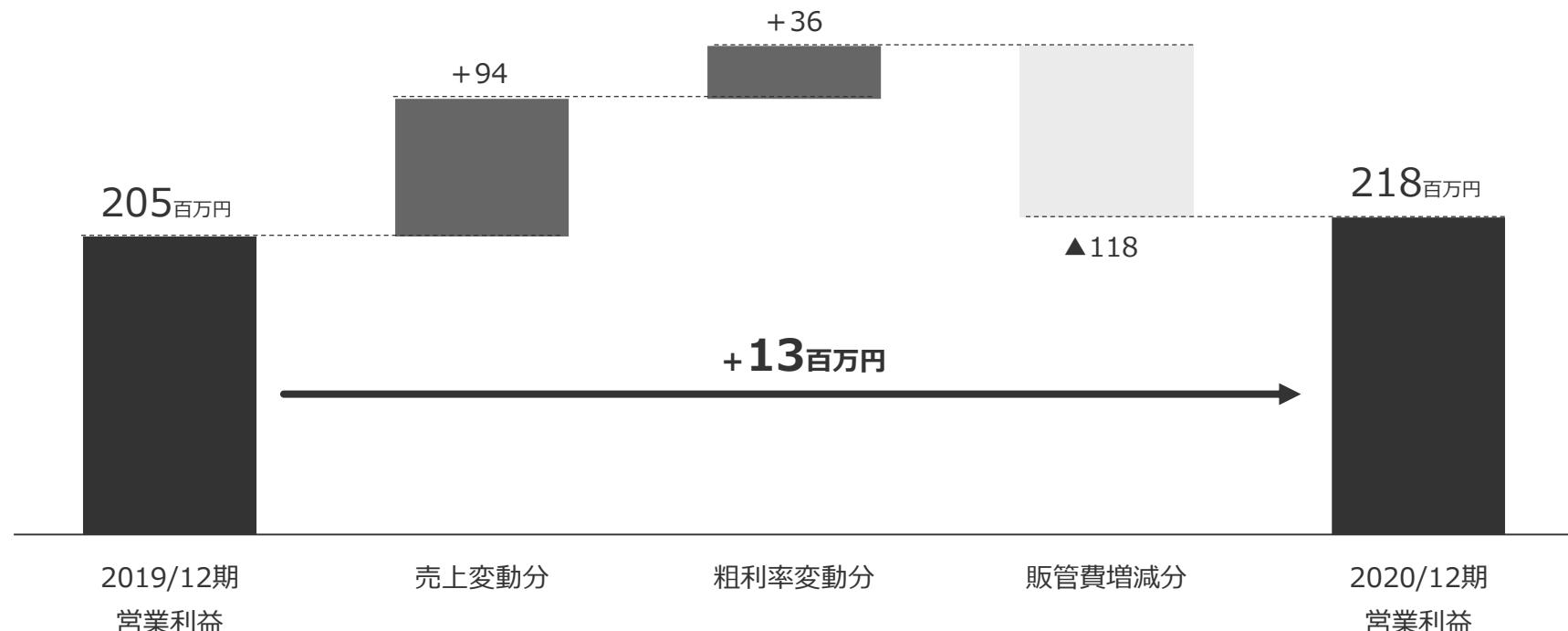
- ・ 堅調なインソーシング事業の需要を背景に会員数増加を見込みつつ、稼働率を維持
- ・ セキュリティ事業の特需一服による減収分をインソーシング事業の增收でカバー

粗利率改善要因

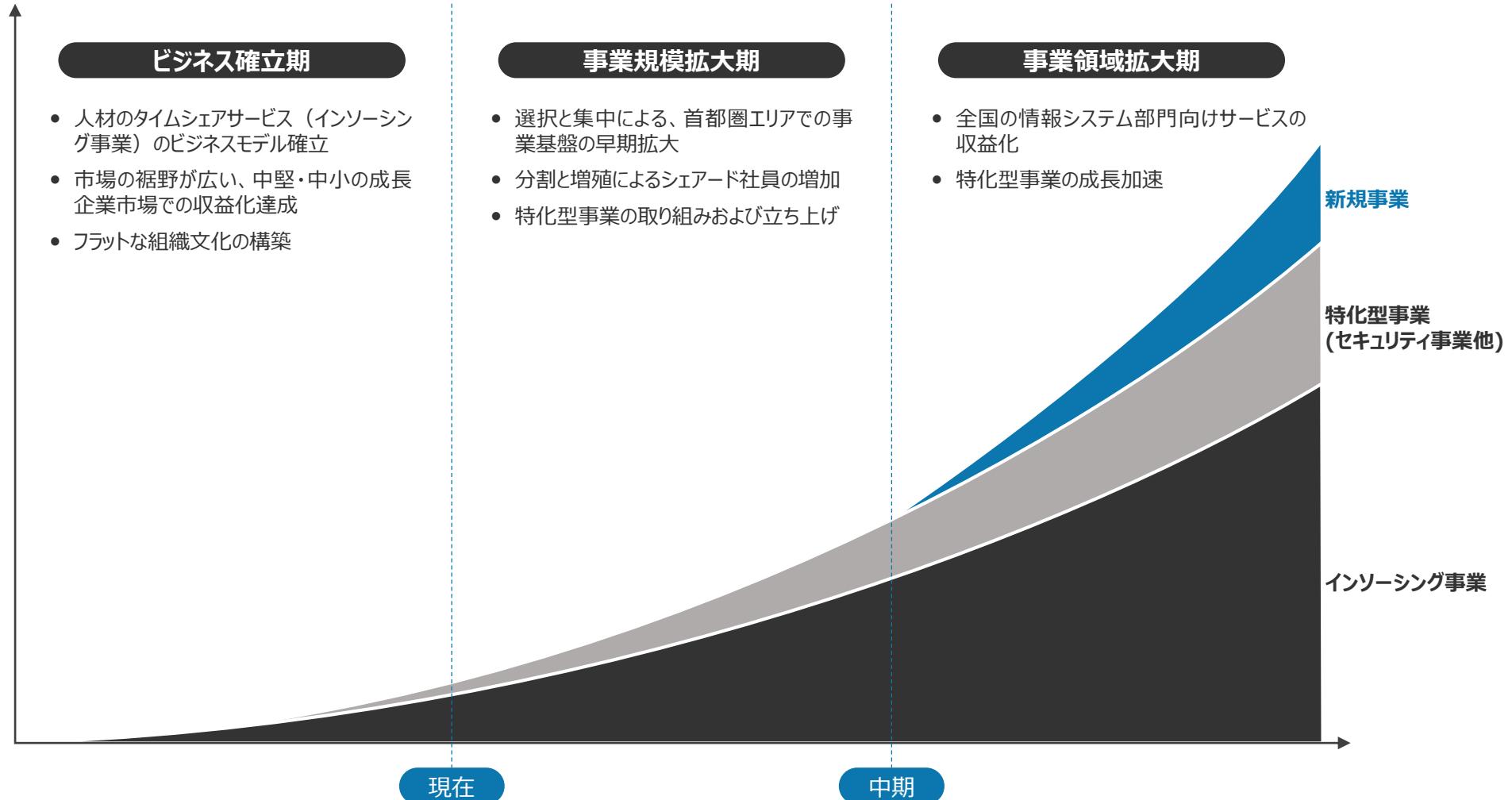
- ・ 教育投資によるシェアード社員のスキルレベル上昇による単価上昇
- ・ 組織分割によるシェアリング密度を維持

販管費増加

- ・ 繼続した採用強化による人件費の増加
- ・ 中長期的な成長を見据えたメディア投資、研修費用の増加



中長期成長イメージ





Unite and Grow



Unite and Grow
ユナイトアンドグロウ株式会社